

私は1992年(平成4年)に札幌で生まれ、以来、小中高大学、さらには就職先まで札幌で過ごしています。今となっては一度くらい道外に出るべきだったなと思っていますが、徐々に自分で敷いた人生のレールを逸脱することが難しくなっている今日この頃です。

港湾・漁港を専門とする建設コンサルタントに新卒で入社し、漁港計画業務を行っていますが、

大学の専攻はコンクリートだったため、業務では様々な未知との遭遇に悪戦苦闘しております。この仕事の魅力は?と聞かれたら、「おいしい魚介類を現地で食べられること」と答えます!

2024年(令和6年)4月で社会人9年目を迎えますが、考えてみるとここまで長く同じこと続けられたのは小学校の6年間以外には思い当たりません。中学では友達の誘いで突如野球の硬式クラブチームに所属し、レギュラーとして全国大会にも出場しましたが、色々思うところがあり、高校で野球はやらずにまさかの演劇部に入部。札幌支部の創作脚本奨励賞の受賞や全国大会の生徒講評委員にも選出されましたが、これからは観る専門でいいやと思い、大学ではアカペラサークルに所属。さらには集団授業の塾講師のアルバイトにも情熱を注いでいました。修士課程に行くかも迷いましたが早く社会に出たいという思いが強く、4年で卒業。なんともまとまりのなく、熱しやすく冷めやすい経歴でした。

さて、結局何が言いたいのかというと、技術士取得を目指したこと・取得したことで、これまでの仕事の仕方とはまた違った感覚となり、新たな一面を発見できたことが今も仕事を続けられている要因の一つだということです。今後も飽きないように、何か新しいことに挑戦し続けていきたいです。

加嶋 慎也(かしま しんや)

●水産部門(水産土木)

勤務先

株式会社クマシロシステム設計



→次号は、小竹元己さん(水産部門)

本原稿を書き始めたのは、ちょうど令和6年元日になってからでした。夕方にネットニュースを見ると、能登半島地震が発生し、最大震度7の大規模な地震であり、被害の惨状は非常に深刻なものでした。翌日には、羽田空港で北海道から降り立った日航機と、被災地支援のため現地に向かう予定だった海保機が衝突し、炎上しました。本災害に関連してお亡くなりになられた方々に哀悼の意を捧げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回のような災害が発生するたびに、何かできることはないのか、少しでも困っている人たちを助けることはできないのかと、自分の無力さを痛感します。また、建設コンサルタントの技術者として、災害発生時のために日頃の備えが常々重要であることを再認識しました。

私は生まれも育ちも帯広市で、北見工業大学を卒業後、地元の地域コンサルに勤務しています。公共事業に関わる日々の業務を通じ、少しでも社会貢献できていると感じられる場面が仕事のやりがい・モチベーションにつながっています。公益を重視する姿勢というのは、土木技術者として本来あるべき姿ではないかと感じます。

「大一大万大吉」を胸に、日々自分のできることをコツコツと積み上げ、私たちの仕事が社会の皆さまにとって「幸せ」に繋がることだと胸を張って言えるよう、また有事の際に頼られる存在になれるよう、これからも自己研鑽に励みます。つたない文章で大変恐縮ですが、これで結びといたします。最後まで拝見いただきありがとうございます。

伊藤 真(いとう しん)

●建設部門(道路)

勤務先

(株)土木技術コンサルタント



→次号は、古田勝章さん(建設部門)